

平成20年度 岩手・宮城内陸地震調査団報告 その3 荒砥沢ダム北方地区の地質層序

日本応用地質学会 平成20年岩手・宮城内陸地震調査団

御沢～行者滝

御沢の大崩壊東を望む

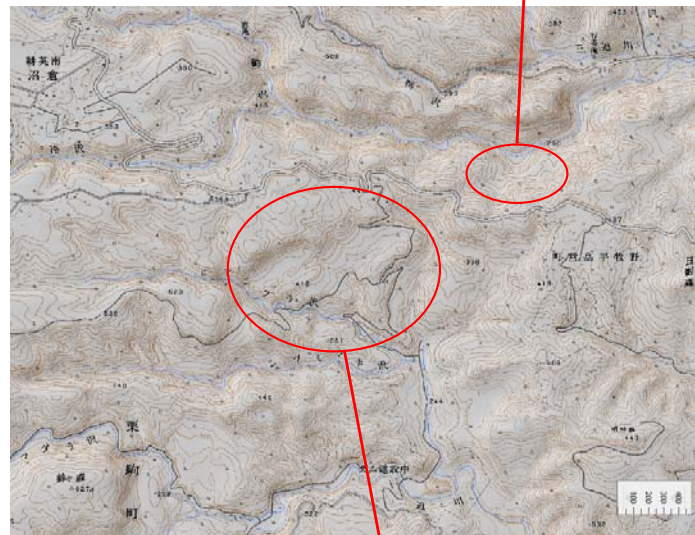
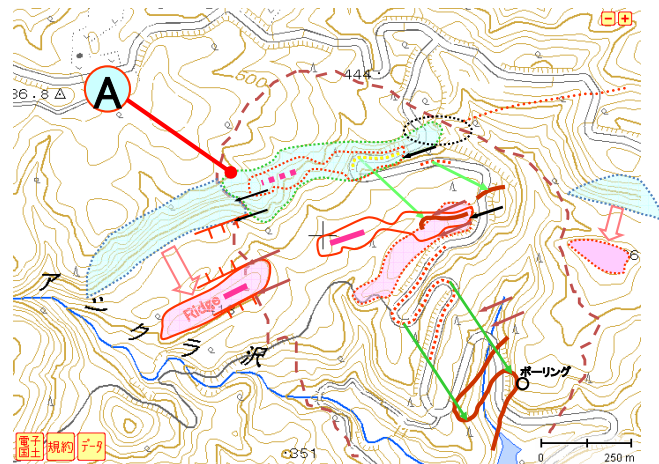


荒砥沢側から御沢に至る尾根沿いの「地表変状」の東端部、御沢側の崩壊地点から東方を望む。
最上位の溶結凝灰岩(灰色)の基底(赤点線)の標高差は堆積時の地形を表しているものと考えられる。
写真手前の位に堆積する溶結凝灰岩にはN50E走向の、板状の節理が発達し、壁のように見える。



下位から、①軽石凝灰岩、②ラハールを挟んで、③水平ラミナの発達する細粒凝灰岩、④暗灰色の細粒部(?)を介して、最上位に⑤溶結凝灰岩の堆積が確認される。

荒砥沢ダム北方



荒砥沢ダム上流大規模崩壊地空撮写真(国際航業(株)提供)



荒砥沢ダム上流大規模崩壊地全景



溶結凝灰岩基底(移動) 溶結凝灰岩基底(不動)



湖成堆積物(不動) 湖成堆積物(移動土塊)



荒砥沢ダム湖底に現れた軽石凝灰岩の下位の湖成堆積物(層理発達)



- ① 溶結凝灰岩(厚さ80m+)
- ② 軽石凝灰岩